

名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.249

2014年2月

インドネシア・日本法教育研究センター開所式等を挙

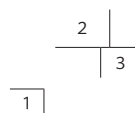


目次

●ニュース	
インドネシア・日本法教育研究センター開所式等を挙	3
行	
教育改革・教育法に関するラウンドテーブルを開催	4
国土交通省中部地方整備局と連携・協力に関する協定を締結	5
第5回名古屋大学-JAXA 連絡協議会を開催	5
キャンパスクリーンウィークを実施	6
大学入試センター試験が実施される	6
●知の未来へ	
マイクロ・ナノマニピュレーション技術が拓くメカトロニクスの新展開	7
中島 正博（大学院工学研究科助教）	
●知の先端	
ゆずって調べる地震と火山	8
山岡 耕春（大学院環境学研究科教授）	
●学生の元気	
平成25年度名古屋大学体育会会長表彰 表彰式	10
●部局ニュース	
第6回おもしろ科学教室を開催	11
材料バックキャストテクノロジーシンポジウムを開催	11
公開講義「アメリカのデジタルジャーナリズム最前線」を開催	12
講演会「地球環境変動ー気候変化からハビタビリティまでー」を開催	12
第96回防災アカデミー開催	13
高校生防災フォーラムを開催	13
「ミクロの探検隊® 微化石 放散虫 電子顕微鏡を使ってさぐる形の不思議」を	14
開催	
第52回名古屋大学博物館コンサートを開催	14
●名大を表敬訪問された方々	15
●新たに締結した学術交流協定	16
●構成員を対象とした研修	16
●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成25年12月16日～平成26年1月15日	17
●INFORMATION	
平成25年度定年退職教授等の最終講義日程	19
●イベントカレンダー	20
●ちょっと名大史	
学生横綱 稲垣 登	24

インドネシア・日本法教育研究センター 開所式等を挙





- 1 センター看板除幕式の様子
- 2 センター開所に関する覚書締結の様子
- 3 プラティクノ学長（左）と総長（右）によるテープカットの様子

インドネシア・日本法教育研究センターの開所式等が、1月12日（日）、インドネシア ガジャマダ大学において挙行されました。同センターは海外で7カ所目となる日本法教育研究センターであり、センターの設置・運営並びに活動に関する覚書の調印と併せて記念式典が行われました。

同式典には、本学から濱口総長をはじめ、20名を超える関係者が出席し、ガジャマダ大学からプラティクノ学長、ドゥイコリタ・カルナワティ副学長等が出席し、本学とガジャマダ大学との交流が新たな段階に入ったことをともに祝いました。

式典はまず、総長及びプラティクノ学長の両大学長、定形法学研究科長及びパリプルナ ガジャマダ大学法学部長の両法学部長によるスピーチではじまり、次いで、祝福に駆けつけた全学同窓会インドネシア支部長であるリザル・ルクマン・アフアンディ インドネシア経済担当調整大臣府次官より祝辞が述べられました。その後、両法学部長が、覚書に調印しました。



ガジャマダ大学とは、1995年に大学間学術交流協定を締結しているほか、国際学術コンソーシアム（AC21）や本学の世界展開力強化事業 Campus ASEAN においても活発に交流を行っています。これらの既存の交流を踏まえて、今回の日本法教育研究センターの設置や、今後のさらなる取り組みにより、両大学間の交流が更なる高みを目指すことが期待されます。

今回、ガジャマダ大学法学部内に設置された同センターは、ガジャマダ大学法学部へ留学中の本学学生の司会のもと、両大学学長のテープカットにより、晴れて開所を迎えました。今後は、法学分野を中心に、それに留まることなく、広く両大学の研究・教育・交流

の拠点としての役割が期待されています。また、同センターは、本学のアジアキャンパス設立構想におけるインドネシアの拠点として、ICTの活用や指導教員の派遣並びに、短期の集中スクーリングによる研究指導と、現地常駐のアカデミックスタッフによる、研究支援を組み合わせたハイブリッド型博士課程プログラムを展開していきます。

東南アジア最大の国であり、民族、文化、生態系等様々な点において多様性に富むインドネシアと本学との交流の窓口として、同センターはより多くの学生・研究者による、様々な形の交流促進を目指し、今後、活動を展開していきます。

教育改革・教育法に関するラウンドテーブルを開催

教育改革・教育法に関するラウンドテーブルが、12月17日(火)、ミャンマー連邦共和国のヤンゴン大学において開催されました。これは本学とヤンゴン教育大学の共催で開催されたもので、当日は予定の150名を超える参加がありました。

ミャンマーでは現在、公教育制度の包括的な改革を目指し、教育法整備を進めています。その第一歩として、国家教育法の改正案を連邦議会に提出する予定であり、この法案作成作業には多くの研究者が参加しています。今回のラウンドテーブル開催は、学術交流を通して本学の教育学研究・教育法研究の知見を提供し、ミャンマーの研究者を支援することを目的として行われました。

ラウンドテーブルでは、中嶋哲彦教育発達科学研究科教授により「教育法の原理と整備の課題」と題して教育制度・教育法の基本原理について報告があり、次いでミャンマー芸術科学アカデミー議長であるテイン・ミント博士が「教育改革と教育法整備－現状と課題－」と題してミャンマーにおける教育制度改革の現状と課題を報告しました。さら



ラウンドテーブルの様子

に、同研究科出身の川口洋誉愛知工業大学講師より、「高等教育制度－設置主体、設置認可、私学助成－」と題して高等教育の制度原理について報告がありました。

その後、タン・ヌー ヤンゴン大学教授、アウン・ミン ヤンゴン教育大学学長、チン・メイ・トゥン ヤンゴン遠隔教育大学法學部長も加わってオープン・ディスカッションが行われ、「子どもの教育を受ける権利を保障するため、親の就学義務履行をどのようにして確保するか」、「貧困家庭の子どもや障害のある子どもに対する教育機会の保障をどう進めるか」などについて議論されました。

司会は植田健男教育発達科学研究科教授とアイ・アイ・チョー ヤンゴン教育大学教育学部長が務めました。また、開会に際して、合田隆史国立教育政策研究所フェローとアウン・ミン学長があいさつを行いました。

今回のラウンドテーブルは、昨年11月に松田同研究科長と中嶋教授らがヤンゴン大学及びヤンゴン教育大学を訪問し、教育法整備支援のための学術交流を提案したことを受けて実現したものです。ミャンマー側からは、今回のラウンドテーブルを通じて教育制度改革・教育法整備にとって有益な知見が得られたとの発言があり、今後ますます本学との学術交流を発展させたいとの希望が伝えられました。



記念撮影

国土交通省中部地方整備局と連携・協力に関する協定を締結

国土交通省中部地方整備局との連携・協力に関する協定書の締結式が、12月16日(月)、本部1号館第2会議室において挙行されました。本協定は、これまで長年にわたり培ってきた信頼関係を基盤に、より緊密かつ組織的な連携・協力の推進・強化を図り、本学は、教育・研究及び地域社会への貢献について、整備局は、社会資本整備・維持



締結式の様子

の推進による持続可能で活力ある国土・地域づくりについて、相互に連携・協力し、地域における防災機能の向上及び地域社会の持続的発展に寄与することを目的として締結されたものです。

今回の協定締結により、大学が有する基礎研究成果が持続可能な国土・地域開発の場において実践されることや、地震時合同訓練の実施など、大規模災害に備えた体制整備の構築や減災連携の強化につながります。さらに、研究者交流やインターンシップなどの充実により、教員・学生等が現場を含む幅広い体験をすることで、視野の広い技術者や研究者の育成を目指しています。

今後、これらの実現を通して、相互に発展的な関係を築いていくことが期待されます。

第5回名古屋大学-JAXA 連絡協議会を開催

宇宙航空研究開発機構（JAXA）との連携協力協定に基づく第5回連絡協議会が、12月19日(木)、環境学総合館レクチャーホールにおいて開催されました。今回は、本学卒業生3名を含む4名のJAXA 理事が来学しました。

本学とJAXAでは、連携協定に基づき、共同研究・教育、研究者の交流、研究施設・設備の相互利用などを進めてい



協議会の様子

ます。

連絡協議会では、「航空宇宙機設計」、「太陽地球環境」、「X線・赤外線天文」、「地球観測」、「月惑星探査」の各分野における活動実績報告があったほか、「博士課程教育リーディングプログラム」、「航空宇宙教育プログラム」、「SPICA 名大-JAXA 連携協力」の各テーマについて連携強化に向けて、活発な意見交換が行われました。

また、会議に先立ち、JAXA 側参加者は、ナショナルコンポジットセンターとASTRO-H搭載X線望遠鏡の開発現場を見学しました。

キャンパスクリーンウィークを実施

大学構内環境美化運動「キャンパスクリーンウィーク」が12月16日(月)から20日(金)までの間、全学の教職員及び学生の協力を得て実施されました。

これは、環境保全に対する関心を高めるために、6月と12月の環境月間に平成元年から年2回実施しているもので、本学も名古屋市の一構成員として境界の外周清掃も併せて行い、環境美化に努めています。

本部では、12月20日(金)の午後、晴天ながら寒風吹きす

さぶ中、西尾施設管理部長をはじめとした約120名の参加者が、東山キャンパス構内及び周辺の市道に分かれて、空き缶・紙くず等の除去、雑草等の刈り取り、不要なビラ等の撤去などの作業を行いました。

この取り組みは、本学のごみ分別が名古屋市に準拠していることもあり、参加者に一市民として分別意識を高めてもらう機会になっており、今後ごみのないキャンパスを目指し継続していきます。



説明を受ける職員



清掃の様子

大学入試センター試験が実施される

—本学関係会場で約6,900名が受験—

平成26年度大学入試センター試験が、1月18日(土)、19日(日)の2日間、全国693会場で実施され、本学関係では東山キャンパスや学外の高等学校など合計7会場で約6,900名が受験しました。今年度の全国の志願者数は、前年度より12,672名(2.2%減)減で560,672名となりました。

試験1日目は、午前8時すぎにはコートやマフラーで身

を包んだ受験者が会場に集まり始め、参考書やノートでの最終チェックや友人との会話でリラックスするなどして、各々の方法で試験に備えていました。また、東山キャンパスでは、高校ごとに集合し、教師から激励を受け、健闘を誓う受験者の姿が見られ、8時30分の入室開始と同時に、次々と試験室へ入室し、予定どおり試験が実施されました。

例年、同試験の実施日には、小雪が舞うなどの荒天になることが多いのですが、今年の天候は、冷えこみはあったものの穏やかな晴天になりました。

また、濱口総長と竹下事務局長が各試験場を訪問し、試験場主任及び教職員にねぎらいのことばをかけました。

なお、本学の前期日程試験は、2月25日(火)、26日(水)及び27日(木)に、また、後期日程試験(医学部医学科)については、3月12日(水)に実施されます。



試験に臨む受験者

大学院工学研究科助教
中島 正博

の湿潤大気環境におけるナノマニピュレーションシステムを構築し、マイクロ・ナノツールを用いた単一細胞のナノサージェリシステムを構築してきました。これにより、単一細胞レベルでの生死判別、活性評価、特性計測、切断、埋め込みなどを行う技術を提案しました。

また現在、名古屋大学理学研究科と共同研究を実施し、線虫を対象としたマイクロ・ナノマニピュレーションに基づいた局所インジェクションシステムを構築しています(図2)。これにより、モデル生物として様々な研究へ応用されている線虫の神経システムの解明などに向けて研究を進めています。

これまでの成果に基づき、平成25年8月に米国のIEEE Nanotechnology Council から Early Career Award in Nanotechnology を受賞し、また平成25年3月に共著者として Springer 社より Micro-Nanorobotic Manipulation Systems and Their Applications を出版しました。未来を切り開くマイクロ・ナノメカトロニクス研究の楽しさと様々なチャンスを与えてくださった本学および諸先生方に心から感謝すると共に、今後とも世界的に注目される研究が実施できるよう日々精進する次第です。

私は、大学院工学研究科附属のマイクロ・ナノメカトロニクス研究センターに所属し、これまで最先端のマイクロ・ナノシステム、マイクロ・ナノメカトロニクスに関わる研究に携わってきました。マイクロ・ナノメートルスケールの対象物は、顕微鏡を用いて観察する必要があります。我々は、顕微鏡下で人が動かすことができる、マニピュレーションシステム(操作システム)を構築することで、人が直接操作することが困難なマイクロ・ナノメートルスケールの対象物の計測・加工・組み立てを行う技術を構築してきました。

マイクロ・ナノマニピュレーションシステムは、工学的な応用を考える上で、顕微鏡によって操作対象物の環境が、1)水中環境、2)湿潤大気環境、3)乾燥大気環境、4)真空環境などに限定されることに考慮して構築することが求められます。我々は、細胞を対象とした場合は、水中環境や湿潤大気環境、カーボンナノチューブなどのナノ材料を対象とした場合は、乾燥大気環境や真空環境における顕微鏡下でのマイクロ・ナノマニピュレーションシステムを構築し、またそれらを組み合わせるためのシステムを構築してきました(図1)。

例えば、環境制御型電子顕微鏡(Environmental-Scanning Electron Microscope, E-SEM)下で

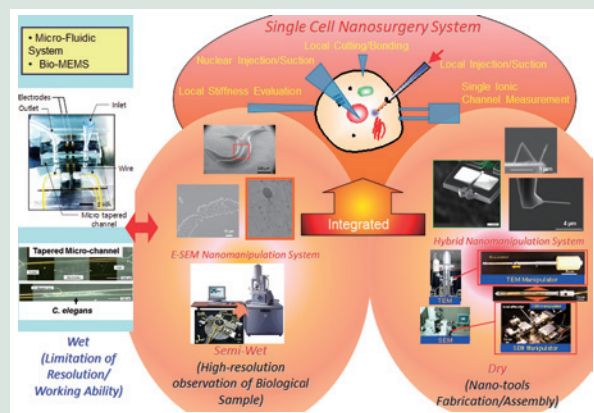


図1 マイクロ・ナノマニピュレーションシステムによる単一細胞ナノサージェリシステム

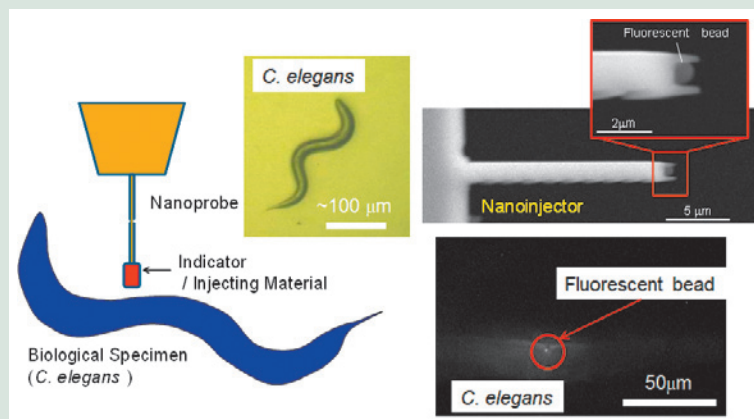


図2 ナノマニピュレーションシステムに基づいた線虫へのナノインジェクション

ゆすって調べる地震と火山

山岡 耕春 大学院環境学研究科教授

見えない場所を振動で知る

私たちは、経験的に振動を用いて様々なことを調べています。夏にスーパーでスイカを選ぶときには、コンコンと指先でたたいて音を確認、食べ頃かどうかを知ります。トンネルの壁のモルタルや建物の壁のタイルの落下を未然に防止するため、実際にハンマーでたたいた音の変化を聞き、剥がれそうかどうかを調べます。このように目に見えなくても物体の内部の状態が変化すれば、振動が伝わる特性も変化します。

地震火山研究センターでは、このような手法を地震発生場や火山に適用する研究を進めています。そのために最適な装置が必要です。装置は、ACROSS と呼ばれ、熊澤峰夫名古屋大学名誉教

授を中心に1995年に考案され、その後継続的に研究開発が行われているものです。

振動で地震や火山の何がわかる

地震現象は、地下の岩盤の割れ目である断層面にかかる応力が徐々に増加し、断層面をずらす応力が面のまさつ強度を越えたときに、急激に岩盤が動いて振動を発生させる現象です。応力が変化すると振動が伝わる速度が変化しますし、まさつ強度が変化すると面を横切る際の振動の振幅が変化します。地下の震動の伝わり方の変化を調べると、地震にむけて地下で準備が進んでいく様子を捉えることが可能になります。

火山噴火は、火山の地下にあるマグマだまりにマグマが蓄積され、マグマに溶けていた揮発性成分が泡になって浮力が増えたためにマグマが上昇し、地表から噴出する現象です。マグマ内部の泡の増減やマグマの移動に伴い、火山の地下を通過する地震波の伝わり方が変化します。火山の地下における振動の伝わり方の変化を調べると、火山が噴火を準備していく過程が明らかになると考えられます。ただし、いずれも変化量は小さいため、精度の高い観測が必要となります。

原理

このような精度の高い観測を目的として ACROSS が開発されましたが、ACROSS の仕組みはいたって単純です。おもりを回転軸



図1 鹿児島大学・京都大学等と協力し、桜島に設置した ACROSS 震源装置。装置はネットワークを利用して名大から遠隔監視・操作されている。

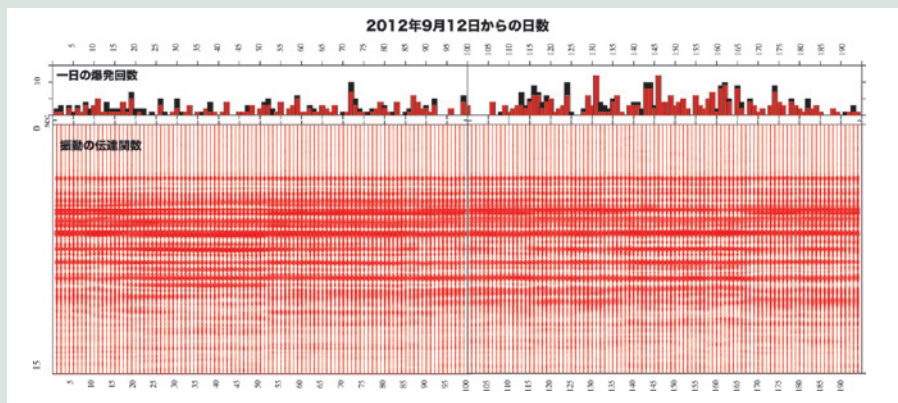


図2 桜島火口を挟んだ震源—地震計間での振動（伝達回数）の変化。伝達回数の後半（下側）の変化が大きい。伝達回数は下側ほど相対的に深い場所からの信号が関係している。上段は桜島の爆発回数。

の廻りに回転させて遠心力によって振動を発生させているだけです。しかし、観測目的のために最適な振動を発生させるためにおもりの回転を精密に制御し、高い性能を得ています。

そのポイントは2つです。ひとつは、同一パターンの振動を繰り返し発生させることです。ACROSSの震源装置から発生した振動は地下を伝わり地震計で記録されます。くりかえし同一パターンの信号を記録し続けることによって地下における微小な変化を捉えることが可能になります。

もうひとつは、正確な時刻に同期させて震動を出すことです。位置情報として用いられているGPSの信号は、正確な時刻情報としても利用され、0.1マイクロ秒精度の時刻を得ることができます。ACROSSではこの時刻と発生する震動パターンを精密に同期させることに成功しました。その結果、地下を伝わる振動の微小な変化も検出できる精度の高い観測を実現させました。

実際の適用

私たちはこのACROSSを断層近傍や火山に設置して連続観測を行っています。観測によって様々な現象を捉えています。例えば、周辺の地震によって地盤が揺すられると地震波速度が0.1%のオーダーで遅くなり徐々に回復します。これは震動による地下水の増圧と移動・拡散を表しています。2011年の東北地方太平洋沖地震の際にも同様な現象が観測されていますが地震波速度が完全には回復していません。これは応力の変化を捉えている可能性があります。火山では2012年から日本で最も活発な火山である桜島にACROSSを設置して稼働を始めました。現時点で1年以上にわたる連続観測に成功し、様々な変化が見えてきました。

最近では、この方法の優れた点が認められ、石油の資源管理など、異なった分野への応用研究も進められています。今後は他分野の研究者と協力し、さらに応用範囲を広げていきたいと考えています。

1958年静岡県生まれ 1986年名古屋大学大学院理学研究科博士課程修了（理学博士）、東京大学地震研究所助手、名古屋大学理学部助教授、東京大学地震研究所教授等を経て、名古屋大学環境学研究科附属地震火山研究センター長
専門は地震学・火山学
おもな著書に、「地震予知の科学」（東大出版会・共著）、「Q&A 日本は沈む」（理工図書）、地震・津波と火山の事典（丸善・共著）など

やまおか こうしゅん



平成25年度名古屋大学体育会会長表彰式

表彰式



名古屋大学体育会は、12月25日(水)、豊田講堂第1会議室において、平成25年度名古屋大学体育会会長表彰 表彰式を挙りました。

この表彰は、本学体育会において、優秀な成績を取めた個人、団体及びその指導者の栄誉を讃え、その功績を広く顕彰することを目的としたもので、今回で25回目となります。

今年度は、12月9日(月)の体育会会長表彰審査会の審査を経た「個人の部」11名、「団体の部」7団体が本学体育会会長である濱口総長から表彰され、1年間のめざましい成果を讃えられました。

なお、受賞した個人及び団体には、副賞として名古屋大学校友会から記念品等が贈呈されました。

平成25年度 名古屋大学体育会会長表彰 受賞者一覧 (表彰対象期間：平成24年11月1日～平成25年10月31日)

個人の部 (11名)

個人名	所属学部・学年	所属団体名	表彰要綱該当条項	出場大会名及び成績
1 山本 真也	工学研究科・M1年	アーチェリー部	一般賞 (第4条2項2号)	2013年度東海学生アーチェリーインドア選手権大会 男子個人 優勝
2 寺嶋 南	法学部・4年	アーチェリー部	一般賞 (第4条2項1号)	第68回国民体育大会アーチェリー競技会 成年男子個人及び団体に愛知県代表選手として出場
			一般賞 (第4条2項2号)	2013年度東海学生アーチェリーインドア選手権大会 女子個人 優勝
3 朝日 一堯	工学部・4年	スキー部	一般賞 (第4条2項2号)	2013年度東海学生アーチェリー選抜選手権大会 女子個人 優勝
			一般賞 (第4条2項2号)	2013年度東海学生アーチェリーフィールド選手権大会 女子個人 優勝
4 池野 千紘	教育発達科学研究科・M1年	トライアスロン部	特別賞 (第4条1項4号)	第68回国民体育大会冬季大会 スキー競技会 成年男子個人及び団体に愛知県代表選手として出場
			一般賞 (第4条2項3号)	2013 JTU エイジランキング 女子総合 第1位
5 近藤 輝	工学研究科・M1年	トライアスロン部	一般賞 (第4条2項2号)	第25回蒲郡オレンジトライアスロンエイジ (スタンダードディスタンス) 女子総合 第1位
6 中野功太郎	工学部・3年	馬術部	一般賞 (第4条2項2号)	第25回蒲郡オレンジトライアスロン学生選手権 東海・北陸男子 優勝
7 丸野 詩織	農学部・3年	舞踏研究会	一般賞 (第4条2項2号)	第48回中部学生自馬競技大会 総合馬術競技の部 個人 第1位
8 四ノ宮悠司	工学部・4年	ライフル射撃部	一般賞 (第4条2項2号)	第49回中部日本学生競技ダンス選手権大会 八種目戦 団体戦の部 第1位
9 稲垣 理美	情報文化学部・3年	ライフル射撃部	一般賞 (第4条2項2号)	第83回中部学生ライフル射撃選手権大会 10mエアライフル立射60発競技 個人 優勝
10 近藤 丈	教育学部・3年	ライフル射撃部	一般賞 (第4条2項2号)	第26回中部女子学生ライフル射撃選手権大会 10mエアライフル立射40発競技 個人 優勝
11 鈴木亜由子	経済学部・4年	陸上競技部	一般賞 (第4条2項2号)	第84回中部学生ライフル射撃選手権大会 10mエアライフル立射60発競技 個人 優勝
			特別賞 (第4条1項1号)	第27回ユニバーシアード 女子10,000m 女子5,000m 優勝 第3位

団体の部 (7団体)

団体名	表彰要綱該当条項	出場大会名及び成績
1 アーチェリー部	一般賞 (第4条2項2号)	2013年度東海学生アーチェリー王座出場校決定戦本戦 女子団体 優勝
2 馬術部	一般賞 (第4条2項2号)	第48回中部学生自馬競技大会 総合馬術競技の部 団体 第1位
3 舞踏研究会	一般賞 (第4条2項2号)	第49回中部日本学生競技ダンス選手権大会 種目別戦 団体戦の部 優勝
4 ライフル射撃部	一般賞 (第4条2項2号)	第26回中部女子学生ライフル射撃選手権大会 10mエアライフル立射40発競技 団体 優勝
	一般賞 (第4条2項2号)	第83回中部学生ライフル射撃選手権大会 10mエアライフル立射60発競技 団体 優勝
5 男子ラクロス部	一般賞 (第4条2項2号)	第21回東海学生ラクロスリーグ 1部 優勝
6 航空部	一般賞 (第4条2項3号)	七大会 4連覇
7 陸上競技部	一般賞 (第4条2項3号)	七大会 女子 3連覇

第6回おもしろ科学教室を開催

●大学院工学研究科

大学院工学研究科では、1月13日(月)、IB電子情報館において「第6回おもしろ科学教室」を開催しました。この催しは、本学の地域貢献特別支援事業の一環として、青少年の科学技術への理解増進を目的とし、他の教育研究機関や学協会等とも連携して開催しているものです。今回は、本学と豊田工業高等専門学校、核融合科学研究所、応



理科工作に取り組む参加者

用物理学会東海支部、電気学会東海支部、電子情報通信学会東海支部、日本赤外線学会、日本弁理士会東海支部、プラズマ・核融合学会、レーザー学会中部支部、日本アマチュア無線連盟東海地方本部、総務省東海総合通信局、愛知県電波適正利用推進員協議会の協力のもと開催しました。

まず、末松良一本学名誉教授により「からくり人形の仕組み大公開」と題した講演が行われ、からくり人形の精巧で緻密な仕組みを示しながら、その伝統が現在の日本の技術力につながっていることなどの説明がありました。小学校低学年の児童も多数参加していましたが、興味深く講演を聴いている様子でした。続いて、日本弁理士会東海支部による電子紙芝居「君も今日からエジソン」が上演され、発明保護の重要さや弁理士の役割などが分かり易く解説されました。

その後、各団体の展示の見学を挟んで、参加者たちは理科の原理を応用した工作や、電波を使った鬼ごっこなどに取り組みました。工作では少し手間取る児童もいましたが、最後には全ての参加者が作品を完成させ、科学の面白さを堪能した様子でした。

材料バックキャストテクノロジーシンポジウムを開催

●大学院工学研究科

大学院工学研究科附属材料バックキャストテクノロジー研究センターは、1月10日(金)、ES総合館ESホールにおいて、材料バックキャストテクノロジーシンポジウム「材料研究におけるイノベーションの方法論」を開催しました。このシンポジウムは、研究者・技術者・学生等を対象として、単なるモノづくりではなく、大学における基



会場の様子

礎研究、特に材料に関連する技術を、世界に波及するイノベーションへと結実させる道筋を知ることを目的として開催されました。

まず、金武材料バックキャストテクノロジー研究センター長が、「バックキャスト」の概念も昨今認知度が上がってきているとあいさつした後、松下工学研究科長が、本学のCOI拠点事業や社会イノベーションデザイン学について述べました。

シンポジウムの前半では、青色発光ダイオードの開発などを事例としたイノベーション創出のメカニズムや、その本質に迫る講演が行われました。後半では、アイデアのデザイン化やディスカッションを活性化させるスペースの活用法など、より実践的な方法論について、熱意溢れる講演が行われました。

今後も、東海地域の産学官との連携の強化連携を深め、「材料バックキャストテクノロジー」という視点の研究や、人材育成の輪を広げていきます。

公開講義「アメリカのデジタルジャーナリズム最前線」を開催

●大学院国際言語文化研究科

大学院国際言語文化研究科は、12月16日(月)、文系総合館カンファレンスホールにおいて、名古屋アメリカンセンターとの共催により、公開講義「アメリカのデジタルジャーナリズム最前線」を開催しました。これは、同研究科のメディアプロフェッショナル論講座開設10周年記念事業（名古屋大学地域貢献事業）の一環として開催された



講義をするジェレミー・キャプラン氏

もので、ニューヨーク市立大学ジャーナリズム大学院教育ディレクターのジェレミー・キャプラン氏が講義を行いました。

講義の冒頭で、カリフォルニア州で発生したある地震の5分後に配信された記事がスクリーンで紹介され、その後、それがコンピューターの自動作成記事であることが告げられると、聴衆や記者たちから驚きの溜息が漏れました。続けて、アメリカでは、こうした単純な発生記事はコンピューターによって処理され、記者には調査報道などを執筆する分析力がより必要とされていると指摘しました。また、メディアの媒体にかかわらず、文章表現力だけでなく映像や画像処理等を含むマルチメディアへの対応能力が不可欠となっていること、こうしたメディアの急速な変貌に合わせて大学院教育も常時刷新が求められていることが述べられました。

中村登志哉国際言語文化研究科教授は、こうした米国の現状は、近い将来日本でも起こる可能性があるとは指摘しました。

講演会「地球環境変動－気候変化からハビタビリティまで－」を開催

●地球水循環研究センター

地球水循環研究センターは、12月21日(土)、野依記念学術交流館において、公開講演会「地球環境変動－気候変化からハビタビリティまで－」を開催しました。この講演会は、同センターが、地球水循環に関わる最新の研究成果を社会に紹介する活動の一環として、一般の方々を対象に毎年開催しており、今年は、当日の厳しい冷え込みにもかか

わらず、100名を超える参加がありました。

まず熊谷朝臣地球水循環研究センター准教授より、木々の生存戦略が抱える根本的なジレンマゆえ、熱帯森林破壊と干ばつが負の連鎖に陥ることについての研究例が紹介されました。その後、吉森正和東京大学大気海洋研究所特任助教が、氷期・間氷期サイクルを探る古気候研究が将来の地球温暖化予測研究にヒントを与える展望について述べ、田近英一東京大学大学院新領域創成科学研究科教授は、かつて地球全体が凍結していたスノーボールアース仮説に触れ、凍結イベント直後に急激な生命進化が促されたという興味深い研究を紹介しました。最後に、玄田英典東京工業大学生命科学研究科特任准教授が、太陽系外惑星が爆発的な勢いで発見されつつある近年の観測成果を示し、地球と同じく生命に溢れる惑星の発見も、もはや夢ではないと話しました。

講演後、増永浩彦同センター准教授の司会のもと、4人の講演者によるパネルディスカッションが行われました。数十年から数億年にわたる多様な時間尺度に加えて、系外惑星の話題も盛り込んだ同講演会は、複眼的な視点から地球環境変動を考える良い機会となりました。



パネルディスカッションの様子

第96回防災アカデミー開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、12月6日(金)、環境総合館レクチャーホールにおいて、第96回防災アカデミーを開催しました。

今回は、人と防災未来センター主任研究員である阪本真由美氏により「災害ミュージアムの裏側をのぞいてみませんか?—災害ミュージアムができるまで・できたあ



講演する阪本氏

と一」と題した講演が行われ、64名の参加がありました。災害ミュージアムとは、災害に関する1次資料を収集・保存・展示・研究するための施設であり、主として大規模災害に見舞われた地域に建設されます。

講演では、まず、世界の災害ミュージアムについての紹介がありました。続いて、災害の記憶を継承することの意義や、一方で被災の記憶を忘れたい方々もいること、資料の展示だけでは災害の記憶は伝わらないことなどが説明されました。その上で、ミュージアムに来館した人々に災害の記憶を追体験してもらうこと、被災した方々に共感してもらうことが大切であり、そのためのミュージアムの工夫が重要であると述べられました。また、同センターにおける、市民との対話を通じたミュージアムの改善等の取り組みについても紹介がありました。

質疑応答では、参加者からミュージアムで家屋の耐震化の重要性をさらに主張すべきであるといった提案もあり、災害ミュージアムのあり方について活発な議論が行われました。

高校生防災フォーラムを開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、12月25日(火)、ES 総合館 ESホール及び環境総合館において、高校生防災フォーラムを開催しました。同フォーラムは愛知県防災局、愛知県教育委員会の共催により、将来の若手防災リーダーの育成を主な目的として開催され、今夏催された高大連携高校生防災教育推進事業「高校生防災セミナー」の参加校が、その後



会場の様子

の防災活動の実践状況について報告を行いました。今回は、愛知県内の高校で、今年度で2年目の参加となるⅢ期校15校と1年目となるⅣ期校15校の計30校、大学教員、自治体防災担当者及び防災ボランティアが参加しました。

午前の部は、代表の6校から防災活動への取り組みについて報告がありました。報告では、自衛隊や消防局といった地域自治体と連携した防災訓練、学校周辺での液状化の危険性の調査や震災碑の調査、校舎内の危険場所の調査、防災対策・意識に関する校内アンケート、防災訓練や炊き出し、校内での備蓄品の選定と購入等の取り組みが紹介されました。また、文化祭などの催しを通しての防災意識の啓発、中高一貫校における合同の取り組みといった啓発活動への工夫も紹介されました。

午後の部では学校間での防災活動に関する意見交流が行われました。交流は分科会形式で行われ、高校生同士の意見交換、自治体防災担当者等専門家と高校生の意見交換が実施され、今後の防災活動に向けた議論が行われました。また、今年度で2年目の参加となる高校については修了式が実施され、主催団体代表より参加生徒に修了証書が授与されました。

「ミクロの探検隊[®] 微化石 放散虫 電子顕微鏡を使ってさぐる形の不思議」を開催

●博物館

博物館は、12月24日(火)、「ミクロの探検隊[®] 微化石 放散虫 電子顕微鏡を使ってさぐる形の不思議」を開催しました。放散虫とは、単細胞の動物プランクトンであり、その骨格はシリカ（二酸化ケイ素）を主成分としてできています。小学5年生から高校生までの20名の参加者はまず、



観察の様子

を材料に、電子顕微鏡の試料作りをしました。実体顕微鏡の下で、お目当ての0.2mmほどの化石を試料台に乗せるのは、テクニックと根気が必要です。中には、初めてとは思われないほど実体顕微鏡下で上手に、いくつもの形のよい化石を整然と並べる参加者もいました。その後は走査型電子顕微鏡使用し、放散虫を細部まで観察し、撮影を行いました。どの参加者も、電子顕微鏡に映し出される放散虫に夢中になっていました。

博物館では、このような取り組みが、「博物館好き、理科好きな若者」を育て、将来の研究者育成につながると考え、今後も続けていく予定です。

第52回名古屋大学博物館コンサートを開催

●博物館

博物館は、12月21日(土)、第52回名古屋大学博物館コンサート「知られざる音楽大国 ベネズエラの調べ」を開催しました。

今回のコンサートでは、出口康司氏（クアトロ）と岡野友絵氏（ベース）のデュオ「セレスト」によるベネズエラ音楽の演奏が行われました。途中、ゲストの渡辺有美



コンサートの様子

氏（フルート）も加わり、ファナイ・ホセや、聞き覚えのあるコーヒールンバを始めとする全12曲を熱演されました。

ベネズエラ音楽の素晴らしさに加え、クアトロの名前の由来は「弦が4本」からということや、クアトロは現在のギターの原型により近いことなどの説明もありました。さらに、ベネズエラの音楽は原住民、アフリカ人、スペイン人の音楽が混じって出来上がっていることなどについても話されました。

楽器や曲の説明も多く取り入れた、他では聴く事の出来ない博物館ならではのコンサートに204名の聴衆は大満足の様子でした。

名大を表敬訪問された方々 [平成25年10月16日～平成26年1月15日]

日付	国/地域	訪問者	目的
10月21日	中国	中国東北大学文法学院から周実法学系主任教授	表敬あいさつ及び JDS 事業による法学研究科での講義
10月23日	モンゴル	モンゴル国立教育大学からダグバ・エンクセグ学部長他2名	表敬あいさつ及び意見交換
10月24日	ラオス	チャンパサック大学からシカムタス・ミタレイ学長他3名	表敬あいさつ及び 環境学研究科との部局間学術交流協定調印
11月5日	韓国	ソウル国立大学から李宇新農業生命科学部教授他6名	本学の省エネルギーに関する調査・研修
11月6日	カンボジア	カンボジア王立農業大学からゴ・バンタン学長他1名	表敬あいさつ
11月20日	イギリス	ティモシー・マーク・ヒッチنز駐日英国大使	表敬あいさつ及び PhD プロフェッショナル 登龍門主催“UK Day in Nagoya”講演会
11月22日	モンゴル	モンゴル科学技術大学からオチルバト・バータール学長他1名	表敬あいさつ、学内見学及び博物館・PhD プロ フェッショナル登龍門関係者との懇談等
11月25日	アメリカ	カリフォルニア大学バークレー校からキリアコス・コンボボラス 機械工学科教授	表敬あいさつ
11月27日	中国	遼寧大学国際教育学院から寇振鋒副院長他1名	表敬あいさつ
11月28日	イギリス	リーズ大学からアンドリュー・ハースト国際プログラムマネー ジャー他1名	表敬あいさつ及び意見交換
11月28日	韓国	成均館大学より劉址範工学部長他5名	第3回名古屋大学・成均館大学研究交流会
11月28日	韓国	韓国教育部から崔震明学術院事務局長を含む訪日団7名	日韓教育行政官交流事業による本学視察及び 意見交換
11月28日	ドイツ	フライブルク大学からクリスティアン・ティッシャー国際担当	表敬あいさつ及びフライブルク大学インター ナショナルサマーコース説明会
11月29日	インドネシア 及び マレーシア	インドネシア 国立スプラス・マレット大学及び国立イスラーム 大学ジョグジャカルタ校、マレーシア国立スルタン・イドリス 教育大学からなる代表団8名	表敬あいさつ及びリーディング大学院 「ウェルビーイングアジア」に関する打合せ
12月6日	インドネシア	ディボネゴロ大学ワルシト・ビン・スキルマン・レソ副学長を含む インドネシアの大学関係者10名	表敬あいさつ及びリーディング大学院 「ウェルビーイングアジア」に関する打合せ
12月12日	カナダ	マッケンジー・クラグストン駐日カナダ大使	表敬あいさつ及び講演会
12月13日	中国	北京工業大学から鄭吉春理事長他4名	表敬あいさつ及び意見交換
12月25日	ウズベキスタン	タシケント国立法科大学からカニヤゾフ・エセムーラ学長 他2名	大学間学術交流協定調印及び今後の学術交流に 関する意見交換

新たに締結した学術交流協定 [平成25年10月16日～平成26年1月15日]

大学間学術交流協定

締結日	地域/国名	大学/研究機関名
12月11日	ケニア	ナイロビ大学

部局間学術交流協定

締結日	地域/国名	大学/研究機関名	部局名
10月23日	ラオス	チャンパサック大学	環境学研究科
11月5日	オーストリア	クラゲンフルト大学 ソーシャルエコロジー研究所	環境学研究科及び工学研究科
11月20日	モンゴル	モンゴル国立教育大学	教育発達科学研究科

構成員を対象とした研修 [平成25年10月16日～平成26年1月15日]

実施日	研修名	目的	参加人数
10月21日(月) ～22日(火)	東海地区国立大学法人等目的別研修	東海地区国立大学法人等機関の職員に対し、職務に必要な知識及び能力を付与することにより、職員としての資質の向上と職務遂行能力の増進を図る。	44名
10月30日(水) ～11月1日(金)	東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修(情報処理コース)	東海・北陸地区国立大学法人等機関の技術職員に対し、専門的知識及び技術等を修得させ、資質の向上を図るとともに職員相互の交流に寄与する事を目的とする。	20名
11月18日(月) ～11月22日(金)	平成25年度名古屋大学民間企業派遣研修	民間企業等の業務に従事することにより、柔軟かつ迅速な業務対応について学ぶとともに、今後の名古屋大学の発展に資する人材を養成する。	1名
11月20日(水)、 27日(水)、 12月4日(水)	安全保障輸出管理部局別説明会	希望のあった部局教授会に出向いて、安全保障輸出管理説明会を実施し、各部局教授会構成員の安全保障輸出管理に関する知識の浸透を図る。	各部局教授会構成員
11月21日(木)	安全保障輸出管理(事務系職員向け)「貨物(研究機材、試料など)の輸出における輸出管理について」	物品管理、調達管理、出張管理、研究機材、試料などの物品の海外発送や持出し、研究室において直接、研究支援に携わる事務系職員向けに安全保障輸出管理に関する知識の浸透を図る。	32名
12月3日(火)	平成25年度国際業務研修「大学職員のための多文化コミュニケーション研修」	日頃留学生や外国人教職員、日本人学生や教職員など、多文化の中で仕事をしている、またはその予定の事務系職員を対象とし、多彩な文化を持つ大学構成員とよりよく協働するための知識や感性について理解を深める。	15名
12月5日(木)	安全保障輸出管理(事務系職員向け)「留学生等の受入れにおける輸出管理について」	留学生、外国人研究者、外国からの訪問者の受入れ、研究室において直接、研究支援に携わる事務系職員向けに安全保障輸出管理に関する知識の浸透を図る。	40名
12月18日(水)	第15回教務学生事務担当者実務研修	教務学生事務の実務を担当する職員の資質向上を目指し、教育・学生支援に関する業務の円滑な処理に必要な知識を習得させることにより事務能力の向上を図る。	38名

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成25年12月16日～平成26年1月15日]

記事	月日	新聞等名
1 福和伸夫減災連携研究センター教授は防災や減災、災害を克服しようと立ち向かう「克災」はまず、必ずやるという強い意志、上杉鷹山のいう「為せば成る」の精神を持つことが大事だと語る	12.16 (月)	朝日 (朝刊)
2 現代日本誤百科 (908) : 「借金が減額」する 町田 健文学研究科教授	12.16 (月)	中日 (朝刊)
3 テラヘルツ応用技術講演会～最新の研究成果と産業・医工応用への可能性～開催：1月29日 川瀬晃道エコトピア科学研究所教授が講演	12.16 (月)	日刊工業
4 吉野裕斗さん教育学部附属高等学校1年生が呼びかけて仲間を集め作った国際ボランティア団体「どえりゃあWings」がタイの山岳地帯に住む貧しい少数民族の子どものための募金活動を開始	12.16 (月)	中日 (朝刊)
5 ベトナム・ハノイ日本法教育研究センターが取り上げられ、ベトナムで日本法が注目される理由について鯨京理事は「明治期に欧米の法をうまく取り込んで近代化に成功した日本を手本にしたいと考えたようだ」と語る	12.16 (月)	中日 (夕刊)
6 ケアラー・ヘルスサポーター養成 心身両面で介護者支援 ケアラーサポート研究会代表堀 容子氏元本学教授	12.16 (月)	中日 (夕刊)
7 本学と国土交通省中部地方整備局が協力・連携協定を締結し調印式が行われ濱口総長は「産業発展の基盤となる安全安心な社会づくりに貢献したい」と語る	12.17 (火)	中日 (朝刊)
8 現代日本誤百科 (909) : 「この分野におけます重要項目」町田 健文学研究科教授	12.17 (火)	中日 (朝刊)
9 現代日本誤百科 (910) : 「都市を覚醒せよ」町田 健文学研究科教授	12.18 (水)	中日 (朝刊)
10 第28回博物館企画展『氷壁』を越えてーナイロンザイル事件と石岡繁雄の生涯ー開催：11月5日～2014年1月30日	12.18 (水) 12.25 (水)	朝日 (夕刊) 朝日 (夕刊)
11 東大特別シンポジウム「これからの建築理論」開催：1日 榎 文彦本学名誉博士が講演	12.18 (水)	毎日 (夕刊)
12 吉川史隆医学系研究科教授などのグループはプラズマ照射溶液が抗がん剤耐性卵巣がん細胞にも効果を発揮することを突き止めた	12.19 (木)	中日 (朝刊)
13 現代日本誤百科 (911) : 「超品質」町田 健文学研究科教授	12.19 (木)	中日 (朝刊)
14 本学と京都大学、国立天文台が共同で2015年度に稼働を目指す口径3.8メートル級の光学赤外線望遠鏡の搭載用に京都大学は形状測定ができる画像合成用のデータ統合技術を確認	12.19 (木)	日刊工業
15 経済学研究科長に根本二郎同教授、国際開発研究科長に伊東早苗同教授を選出	12.19 (木)	中日 (朝刊)
16 文化ぶんぶん人類学：名古屋大学和式馬術部 流鏑馬、刀や槍の技	12.19 (木)	中日 (朝刊)
17 「220日間自転車無事故無違反ラリー」表彰式：18日 教育学部附属高等学校が達成し表彰された	12.19 (木)	読売
18 名古屋大学ギターマンドリンクラブ定期演奏会：28日	12.19 (木)	中日 (朝刊)
19 濱口総長は「博士論文を電子媒体化する作業が走り始め、非常に危険な領域に入りつつある」と語り、本学は論文剽窃を防ぐために世界最大の学術論文データベースを活用したチェックシステムを導入	12.20 (金)	朝日 (朝刊)
20 第37回 spcafé「幾何学であそぶ」開催：25日 足立真訓多元数理科学研究科特任助教が講演	12.20 (金)	中日 (朝刊)
21 第40回大佛次郎賞 選考委員の選評 池内 了本学名誉教授	12.20 (金)	朝日 (朝刊)
22 PhD プロフェッショナル登龍門フロンティア・アジアの地平に立つリーダーの養成	12.20 (金)	中日 (朝刊)
23 中日文化センター1月新講座「トリケラトプスの歩き方ー絶滅動物の姿勢復元を科学する」：藤原慎一博物館助教	12.20 (金)	中日 (夕刊)
24 中日文化センター1月新講座「ケアラー・ヘルスサポーター養成ー家庭で介護する人を支える人になろう」：堀 容子氏元本学教授	12.20 (金)	中日 (夕刊)
25 杉山 直理学研究科教授が「紙つぶて」の新しい筆者に選ばれる	12.21 (土)	中日 (夕刊)
26 技と力 息づく起業の芽④：挑む精神、組織で育む 本学が10月に新設したIPO基礎講座について野口晃弘経済学研究科教授は「教科書的な発想ではなく、経営に携わる人の生の声を学生に伝えたかった」と語る	12.21 (土)	日経 (朝刊)
27 朝日カルチャーセンター講座「チベット仏教入門ー歴史と思想」：谷口富士夫本学非常勤講師	12.21 (土)	朝日 (朝刊)
28 本学は2012年度の利益額が大きい主な大学で5位に入る	12.22 (日)	日経 (朝刊)
29 中日新聞を読んで：国家機密と国民の安全 愛敬浩二法学研究科教授	12.22 (日)	中日 (朝刊)
30 現代日本誤百科 (912) : 「仕事をサボタージュする」町田 健文学研究科教授	12.23 (月)	中日 (朝刊)
31 障害者 職場の力に 本学の業務支援室が取り上げられる	12.24 (火)	日経 (朝刊)
32 木下俊則トランスフォーマティブ生命分子研究所教授は気孔の開口を大きくして、植物の生産量の増加に成功	12.24 (火)	朝日 (夕刊)
33 研究現場発：タンパク質を接着させる酵素 人見清隆創薬科学研究科教授	12.24 (火)	中部経済新聞
34 小澤正直情報科学研究科教授と東北大学は測定誤差と擾乱の不確定性に関する新たな不等式の高精度の実験的検証に成功	12.25 (水)	中日 (朝刊) 日経 (夕刊)
35 現代日本誤百科 (913) : 「愚痴を言っているところを側聞」した 町田 健文学研究科教授	12.25 (水)	中日 (朝刊)
36 濱口総長が座長を務める東海産業競争力協議会の作業部会が初会合を開いた	12.25 (水)	中日 (朝刊)
37 数理ウェブ開催：28日 大沢健夫多元数理科学研究科教授と久本智之同特別研究員が講演	12.25 (水)	中日 (朝刊)
38 本学は2014年秋にもアジア7カ国で大学院博士課程を開設すると発表	12.26 (木)	読売

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成25年12月16日～平成26年1月15日]

記事	月日	新聞等名
39 のよりサロン：競争より協調、協力 野依良治本学特別教授が本学学生と議論を交わす	12.26 (木)	中日 (朝刊)
40 現代日本誤百科 (914)：「シフトチェンジ」町田 健文学研究科教授	12.26 (木)	中日 (朝刊)
41 論点：減反廃止後の農政 米価の下落に備えを 生源寺眞一生命農学研究科教授	12.27 (金)	毎日 (朝刊)
42 がんと闘いながら数学五輪「金」三つ 追い続けた数学の「心」故長尾健太郎本学助教	12.27 (金)	毎日 (夕刊)
43 学ぶ育む：囲碁で思考力・集中力アップ 今年度から本学で導入された囲碁の授業について	12.28 (土)	読売
44 ひと：福沢諭吉像の見直しを唱える 安川寿之輔本学名誉教授	12.30 (月)	朝日 (朝刊)
45 愛知学長懇話会主催 ESD 大学生リレー・シンポジウム	1. 1 (水)	朝日 (朝刊)
46 2014年 注目の中部の大学 名古屋大学 アジア力	1. 3 (金)	朝日 (朝刊)
47 名古屋大学大学院 入試日程	1. 3 (金) 1. 5 (日)	朝日 (朝刊) 日経 (朝刊)
48 新エネ最前線：藻からバイオ燃料 神田英輝工学研究科助教の研究が取り上げられる	1. 4 (土)	朝日 (朝刊)
49 逆風満帆①：尖閣に始まり、尖閣に終わる 丹羽宇一郎本学名誉博士	1. 4 (土)	朝日 (朝刊)
50 飯塚 悟環境学研究科准教授は2070年代の8月の平均最高気温を予測したところ、昨年の記録的猛暑を超えることが分かった	1. 5 (日)	中日 (朝刊)
51 教育学部附属高等学校が参加し「高校生 ESD コンソーシアム in 愛知」が開かれた	1. 5 (日)	中日 (朝刊)
52 『『ウェルビーイング in アジア』実現のための女性リーダー育成プログラム』特別講演会 大幸キャンパスで開かれた	1. 5 (日)	中日 (朝刊)
53 今年11月 名古屋で ESD ユネスコ世界会議開催 教育学部附属高等学校の取り組み	1. 5 (日)	毎日 (朝刊)
54 現代日本誤百科 (915)：五億円を「損失した」町田 健文学研究科教授	1. 6 (月)	中日 (朝刊)
55 現代日本誤百科 (916)：「すべて一任」した 町田 健文学研究科教授	1. 7 (火)	中日 (朝刊)
56 ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム「次世代へのメッセージ」開催：2月8日 益川敏英本学特別教授が講演	1. 7 (火)	読売
57 「ドナルド・マクドナルド・ハウスなごや」の受け入れが6日から開始された	1. 7 (火)	中日 (朝刊)
58 高校生防災フォーラム開催：12月24日 本学で行われた	1. 7 (火)	中日 (朝刊)
59 昨年12月本学に小学校教諭や研究者20名が集まり、海外と日本の授業を比較する勉強会が行われた	1. 7 (火)	朝日 (朝刊)
60 名古屋地方裁判所長に就任した加藤幸雄氏本学卒業生が記者会見を開いた	1. 7 (火)	読売
61 笠原次郎工学研究科教授などの研究チームは次世代のロケットエンジンとして期待される「パルスドネーションエンジン」を使った試験機の垂直打ち上げに成功	1. 7 (火)	中日 (夕刊)
62 紙つぶて：宇宙論 杉山 直理学研究科教授	1. 7 (火)	中日 (夕刊)
63 本学のサイエンスカフェに三重大学長が招かれたのがきっかけで始まった三重大学のサイエンスカフェが好評	1. 7 (火)	朝日 (夕刊)
64 現代日本誤百科 (917)：事件を「謎解く」町田 健文学研究科教授	1. 8 (水)	中日 (朝刊)
65 名古屋大学レクチャー2014公開講演会「科学技術は何処へ行くのか～野依博士から次代を担うものたちへ～」開催：2月1日 野依良治特別教授が講演	1. 8 (水) 1.10 (金) 1.15 (水)	中日 (朝刊) 中日 (朝刊) 中日 (朝刊)
66 山田純生医学系研究科教授はインターネットの遠隔指導を通じて、軽い脳梗塞や心筋梗塞を経験した人の再発を予防する NPO 法人を設立する	1. 8 (水)	中日 (朝刊)
67 現代日本誤百科 (918)：「特急の通過を待ち合わせます」町田 健文学研究科教授	1. 9 (木)	中日 (朝刊)
68 14年アマ球界を沸かす男たち①：中部の大学生ドラフト候補 七原優介さん本学3年生	1. 9 (木)	中日スポーツ
69 東レ株式会社代表取締役会長榊原定征氏本学卒業生が日本経済団体連合会の次期会長に起用される人事が内定	1. 9 (木) 1.10 (金) 1.15 (水)	日経 (夕刊) 中日 (朝刊) 他2社 中日 (朝刊) 他2社
70 愛知県出身会長 期待の声 平野眞一前総長は次期経団連会長に内定した榊原定征氏本学卒業生について「国民的な目線が求められる難役だが、バランス感覚と思いやりのある彼なら大丈夫」と語る	1.10 (金)	中日 (朝刊)
71 逆風満帆②：負の遺産に立ち向かう 丹羽宇一郎本学名誉博士	1.11 (土)	朝日 (朝刊)
72 学ぶ育む：2014年度大学入試 駿台予備学校が行った昨秋の調査で本学や東北大学、九州大学などで志願者が増えていることが分かった	1.11 (土)	読売
73 病院の実力：腰と首の手術 医学部附属病院の実績が取り上げられる	1.12 (日)	読売
74 現代日本誤百科 (919)：出かけてから「ぼちぼち一時間だ」町田 健文学研究科教授	1.13 (月)	中日 (朝刊)
75 皇后杯第32回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会：12日 愛知の鈴木亜由子さん経済学部4年生が1区を走り流れをつくった	1.13 (月)	中日 (朝刊)

記事	月日	新聞等名
76 森 郁恵理学研究科教授や上川内あづさ同教授、坂内博子同特任講師が中心となり本学で脳の仕組みを明らかにするプロジェクト構想が始動	1.14 (火)	中日 (朝刊)
77 現代日本誤百科 (920) : 「コンクリートの残骸」 町田 健文学研究科教授	1.14 (火)	中日 (朝刊)
78 第6回おもしろ科学教室開催 : 13日 本学で行われた	1.14 (火)	中日 (朝刊)
79 いまドキッ! 大学生 : 留学生に聞く各国入試事情 アブア・クアミオセンスメラドさん本学研究生と本学に留学中の岳夏娃さん、李貞和さんが自国の大学入試事情について語る	1.14 (火)	中日 (朝刊)
80 紙つぶて : 博士人材の活かし方 杉山 直理学研究科教授	1.14 (火)	中日 (夕刊)
81 現代日本誤百科 (921) : 給料を「全額受け取っていない」 町田 健文学研究科教授	1.15 (水)	中日 (朝刊)
82 はたらくこと いきること 理工系女性の想い : 「子供連れ単身赴任」続々 後輩女性のパワーに圧倒 森 郁恵理学研究科教授	1.15 (水)	日刊工業
83 拓く19 : 研究者 京大大学院理学研究科准教授栗田光樹夫氏本学卒業生	1.15 (水)	日刊工業
84 この人 : 木曾馬を活用した地域おこしに取り組む 坂下由衣氏本学卒業生	1.15 (水)	中日 (朝刊)

INFORMATION

平成25年度定年退職教授等の最終講義日程

下記の情報は、2月1日現在のものであります。詳細については、問い合わせ先にご確認ください。

所属	氏名	職名	月日	時間	場所	講義題目	問い合わせ先
医学系研究科	中島 務	教授	3月26日(水)	16:00~17:30	基礎医学研究棟 4階第4講義室	耳鼻咽喉科学の過去、現在、未来	医学部・医学系研究科総務課 学部事務掛 052-744-2774
医学系研究科	鳥橋 茂子	教授	3月21日(金・祝)	14:00~15:00	大幸キャンパス 東館4階大講義室	学生と共に歩んだ研究生生活	河村守雄教授 052-719-1364
環境学研究科	大森 博司	教授	3月14日(金)	15:00~16:30	ES 総合館1階 ES ホール	歳月38年 (仮題)	古川忠稔准教授 052-789-3584
エコトピア 科学研究所	大日方五郎	教授	3月17日(月)	15:00~16:30	ES 総合館1階 ES ホール	人間と機械の関係から見る機械工 学・ロボット工学の進む道	山本 江助教 052-789-5030

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

1月6日(月)～3月19日(水)
 場 所: 博物館野外観察園
 セミナーハウス2階
 時 間: 10:00～16:00
 休 館 日: 土・日・祝日
 入 場 料: 無料

博物館野外観察園セミナーハウスサテライト展示
「ボタニカルアートと写真による観察園の植物」
 テー マ: 「11-冬と早春の植物」



[問い合わせ先]
 博物館事務室 052-789-5767

2月12日(水)～5月30日(金)
 場 所: 附属図書館医学部分館
 2階入口ホール
 時 間: 9:00～20:00 (平日)
 (3/24～31の平日は9:00～17:00)、
 13:00～17:00 (土曜日)
 休 館 日: 日・祝日、3/22(土)、3/29(土)
 入 場 料: 無料

附属図書館医学部分館第6回ミニ展示会
「戦争と大学－1931～1945官立名古屋医科大学・
名古屋帝国大学－」

内 容: 医学部史料室に所蔵する史料の中から、名古屋空襲により甚大な被害も受けた戦争の時代の官立名古屋医科大学・名古屋帝国大学における研究・教育・医療についての史料、写真等を展示



[問い合わせ先]
 附属図書館医学部分館 052-744-2505

2月18日(火)
 場 所: 野依記念学術交流館
 時 間: 10:00～18:00
 定 員: 250名
 対 象: 大学、一般企業で科学研究に携わる方
 参 加 費: 無料 (懇親会は有料)

第10回平田記念レクチャー and ITbM-IGER 名古屋シンポジウム
10th Yoshimasa Hirata Memorial Lecture and ITbM-IGER Nagoya Symposium on Transformative Synthesis

講 演 者: マーティン・D・パーク氏 (イリノイ大学准教授)、
 ジャスティン・デュボア氏 (スタンフォード大学教授)、
 上村大輔氏 (神奈川大学教授)、
 岸 義人 (本学特別教授)

内 容: 世界の最先端化学をリードする4名の研究者が最新の研究成果を講演



[問い合わせ先]
 トランスフォーマティブ生命分子研究所
 教授 伊丹健一郎 052-788-6098

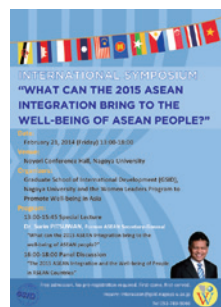
2月21日(金)
 場 所: 野依記念学術交流館2階
 カンファレンスホール
 時 間: 13:00～18:00
 参 加 費: 無料

国際シンポジウム「2015年 ASEAN 統合が ASEAN 諸国の人々のウェルビーイングにもたらすものは何か？」
International Symposium "What can the 2015 ASEAN Integration bring to the Well-Being of ASEAN People?"

講演題目: 「What can the 2015 ASEAN Integration bring to the well-being of ASEAN people?」

講 演 者: スリン・ピッサワン氏 (前 ASEAN 事務総長)

内 容: 講演、パネルディスカッション



[問い合わせ先]
 国際開発研究科 052-789-5066

2月22日(土)
 場 所: 野依記念学術交流館2階
 カンファレンスホール
 時 間: 13:00～18:00
 参 加 費: 無料

国際シンポジウム「教育のリージョナリゼーション：2015年 ASEAN 統合は何をもたらすのか」
International Symposium "Regionalization of Education?: The Implications of the 2015 ASEAN Integration"

講演題目: 「The Road to an ASEAN Community in 2015: How Education for ASEANness Can Play a Role?」

講 演 者: スリン・ピッサワン氏 (前 ASEAN 事務総長)

内 容: 講演、パネルディスカッション



[問い合わせ先]
 国際開発研究科 052-789-5066

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

2月22日(土)

場 所: ES 総合館 1 階 ES ホール
時 間: 9:00~18:15
参 加 費: 無料 (意見交換会5,000円)

法学部・法学研究科キャンパス・アジアプログラム
第1回学生シンポジウム、
第4回法学院長・学部長会議



[問い合わせ先]

法学研究科
キャンパス・アジアプログラム
052-789-5221

2月22日(土)、23日(日)

場 所: 名古屋市科学館 (名古屋市中区)
(2/22)、
蒲郡市生命の海科学館 (愛知県蒲
郡市)、三田石材 (愛知県西尾市)
(2/23)

名古屋市科学館共催事業
平成25年度第4回地球教室

テ ー マ: 「鉱物をさがそう！」
内 容: 鉱物の性質について学習し、鉱物の採集と鑑定をする



時 間: 14:00~16:30 (2/22)、
9:00~16:00 (2/23)

定 員: 30名

対 象: 小学3年生から中学3年生と
その保護者
(中学生以上は個人参加可)

参 加 費: 1,000円

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

2月22日(土)、23日(日)

場 所: 全学教育棟北棟406号室
時 間: 13:00~18:30 (2/22)、
10:00~17:00 (2/23)

国際言語文化研究科国際シンポジウム
「日本における食と災害文化史研究
—海外の視点を通して—」

講 演 者: ギッシャー=アンギス・シルヴィー氏
(フランス国立科学研究センター教授)、
オーグスタン=ジャン・ルイ氏 (香港理工大学研究員)、
福田育弘氏 (早稲田大学教授)、
モルラン・シャンタラ氏 (プレスト大学民俗学研究所講師)、
石井圭一氏 (東北大学准教授)、
ラガンヌ・ジャン氏 (エクス=マルセイユ大学准教授)、
フュメ・ジル氏 (パリ第4大学教授)、他



[問い合わせ先]

国際言語文化研究科
助教 伊藤信博 052-789-5282

2月25日(火)

場 所: 情報基盤センター4階演習室
時 間: 13:00~14:30
定 員: 40名
対 象: 一般
参 加 費: 無料

平成25年度第11回情報連携統括本部
公開講演会・研究会

講演題目: 「学内情報通信基盤の耐震対策の効果」
講 演 者: 曾根秀昭氏 (東北大学教授)

[問い合わせ先]

情報推進部情報推進課 052-789-4368

3月4日(火)

場 所: 国際開発研究科棟8階
オーデトリウム
時 間: 14:00~
参 加 費: 無料

博士課程教育リーディングプログラム
「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム
特別講演会

講演題目: 「Human Rights for Better Well-being in ASEAN (仮題)」
講 演 者: チェ・チャーリー氏 (王立ブノンペン大学長)

[問い合わせ先]

国際開発研究科
教授 岡田亜弥 052-789-4960

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

3月4日(火)～7月12日(土)
 場 所：博物館特別展示室
 時 間：10:00～16:00
 休 館 日：日・月曜日
 入 場 料：無料

第18回博物館特別展
「人類史上画期的な石器—名大のアフリカ考古学と南山大の旧石器コレクション—」

[関連公開シンポジウム]

3月15日(土)
 場 所：野依記念学術交流館
 時 間：14:00～

講演題目：「石器文化からさぐる新人・旧人交替劇の真相」
 講演者：門脇誠二（博物館助教）、
 野口 淳氏（明治大学校地内遺跡調査団調査研究員）、
 仲田大人氏（青山学院大学講師）、
 前田 修氏（筑波大学講師）、
 松本直子氏（岡山大学准教授）

対 象：一般
 参 加 費：無料

[関連講演会]

4月5日(土)、5月17日(土)
 場 所：博物館3階講義室
 時 間：14:00～

講演題目：「名古屋大学のアフリカ考古学調査」(4/5)
 講演者：加藤安信氏（大同大学大同高等学校長）
 講演題目：「南山大学人類学博物館マリンガー・コレクションの石器資料」(5/17)
 講演者：川合 剛氏（名古屋市博物館学芸員）

対 象：一般
 参 加 費：無料

[問い合わせ先]
 博物館事務室 052-789-5767



3月5日(水)～7日(金)
 場 所：ES 総合館6階635講義室
 時 間：9:00～17:00 (3/5、7)、
 9:00～18:00 (3/6)
 参 加 費：無料

坂田記念素粒子宇宙起源研究機構ミニワークショップ
「標準模型を越える強結合ゲージ理論」
Sakata Memorial KMI Mini-Workshop on "Strong Coupling Gauge Theories Beyond the Standard Model" (SCGT14Mini)

内 容：ヒッグス粒子の複合模型とそのダイナミクスとしての強結合ゲージ理論の理論的研究を中心に3日間で約30の講演を行う

[問い合わせ先]
 素粒子宇宙起源研究機構
 特任教授 山脇幸一 052-789-2862

3月8日(土)
 場 所：IB 電子情報館、ES 総合館
 時 間：10:00～17:00
 対 象：一般
 参 加 費：無料（情報交換会2,000円）

大学教育改革フォーラム in 東海2014

内 容：講演、ポスターセッション、ミニワークショップ、
 オールセッション、他

[問い合わせ先]
 高等教育研究センター 052-789-5696

3月8日(土)
 場 所：博物館2階展示室
 時 間：14:00～15:00
 参 加 費：無料

博物館コンサート NUMCo
「ローズウッドとサヌカイト—マリンバ、フルート、パーカッションのアンサンブル—」

演奏曲目：「LAND—マリンバソロのための—」、
 「日本の四季の歌メドレー」、「RAIN DANCE」、他
 出 演：「フルリン打」松原昭仁氏（マリンバ）、
 松原雅美氏（フルート）、林 美春氏（パーカッション）

[問い合わせ先]
 博物館事務室 052-789-5767



開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

3月9日(日)

場 所：理学部南館 1 階坂田・平田ホール
時 間：10:00～15:00
参 加 費：無料

**高等教育研究センター FD・SD 教育改善支援拠点事業
大学教務実践研究会第 1 回大会**

講演題目：「教育改革のための武器」
講 演 者：羽田貴史氏（東北大学教授）
内 容：講演、事例発表、ポスターセッション

[問い合わせ先]

高等教育研究センター 052-789-5696

3月12日(水)、13日(木)

場 所：理学部南館 1 階坂田・平田ホール、
ホワイエ
参 加 費：無料

**The IGER International Symposium on
Science of Molecular Assembly
and Biomolecular Systems 2014**

内 容：物性・生物物理・統計力学の分野で活躍する専門家による講演、
専攻内の大学院生と若手研究者の口頭・ポスター発表

[問い合わせ先]

理学研究科 教授 宮崎州正
miyazaki@r.phys.nagoya-u.ac.jp

3月13日(木)

場 所：IB 電子情報館 2 階大会議室
時 間：13:30～17:00
参 加 費：無料

第 9 回エネルギーに関する文理融合研究合同成果報告会

内 容：省エネ・二酸化炭素削減について、全学横断的なメンバーによるエネルギー
マネジメント研究・検討会（EM 研）の活動を初めとする本学の教育・
研究の成果を背景にした取り組みの報告と、他大学等の状況の紹介講演

[問い合わせ先]

施設管理部施設管理課 052-789-2137

3月13日(木)

場 所：国際開発研究科棟 8 階
オーデトリウム
時 間：13:30～17:30
参 加 費：無料

「大学の世界展開力強化事業」学生フォーラム

内 容：大学の世界展開力強化事業の受入・派遣学生の留学成果の報告

[問い合わせ先]

国際開発研究科
特任助教 劉 靖 052-789-4572

3月14日(金)、15日(土)

場 所：野依記念学術交流館、
理学部南館 1 階坂田・平田ホール
参 加 費：無料

**Nagoya Symposium on Depletion Forces:
Celebrating the 60th Anniversary of the
Asakura-Oosawa Theory**

内 容：朝倉氏と大澤氏を初めとする国内外の著名研究者による招待講演、
口頭発表やポスター発表を通し朝倉・大澤理論60周年を祝い
IGER の学生の教育に資する

[問い合わせ先]

理学研究科 教授 岡本祐幸
okamoto@phys.nagoya-u.ac.jp



【訂正とお詫び】

名大トピックス248号（2014年1月発行）で以下の誤りがありましたので、深くお詫び申し上げますとともに、下記のとおり訂正させていただきます。
12ページ・下「日本学術会議中部地区会議学術講演会を開催」

【誤】家康 弘 【正】家 泰弘

名大トピックス No.249 平成26年2月14日発行

編集・発行／名古屋大学広報室

本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報室にお寄せください。

名古屋市千種区不老町（〒464-8601）

TEL 052-789-2016 FAX 052-788-6272 E-mail kouho@adm.nagoya-u.ac.jp

名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ

(<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/topics/>) でもご覧いただけます。

表紙

おもしろ科学教室での、
超伝導磁気浮上列車模型
の展示の様子
(平成26年1月13日)



142 学生横綱 稲垣 登

名大の運動部で、個人競技できわめて優秀な成績を残した人といえば、昨年7月のユニバシアードの陸上競技女子1万メートル走で優勝した鈴木亜由子さん（経済学部4年）が記憶に新しいところです。また古くは、名古屋高等商業学校（名高商、経済学部の前身）の学生であった清川正二が、1932(昭和7)年のロサンゼルスオリンピックの水泳男子100m背泳ぎで金メダルを獲得したことが知られています。

今回紹介するのは、やはり名高商の学生として学生横綱になった稲垣 登です。

稲垣は、1902(明治35)年に和歌山県で生まれました。和歌山商業学校をへて、1922(大正11)年に第2期生として名高商へ入学しました。相撲部に入り、1924年には全国学生相撲大会で優勝、第6代学生横綱になりました。現在まで

91代を数える学生横綱の中で、旧帝国大学もしくはその前身学校の学生は稲垣だけです。

稲垣は大変豪快な人だったようで、名高商時代のエピソードも残っています。運動部の猛者たちを集めて、金の鯨を呑み干す気概を持とうと「呑鯨会」なるグループを自ら結成したり、学生寮名物のストーム（夜半に学生が徒党を組み、蛮声とともに荒々しく寮の部屋に乱入して暴れまわる風習）では、常にその中心にいたそうです。

稲垣は名高商卒業後、三井物産に入社しました。中国大陸で活躍し、東京本社での勤務を経たのち、1939(昭和14)年には日中戦争下の上海に派遣されて、物資の調達に従事、その後上海共同租界工部局経済局長、中華日本貿易連合会常務理事を務めました。

敗戦後は、いわゆる財閥解体により、三井物産が解散させられました。稲垣は旧三井物産系の第一物産に入り、大阪支店長、代表取締役常務などを歴任、1959年に第一物産を中心に新しい三井物産が誕生すると、北米監督兼ニューヨーク支店長をへて副社長となりました。1967年には、三井建設社長に就任しています。



$\frac{3}{4} | \frac{2}{1}$

- 1 稲垣 登 (1902-1979、写真は「稲垣登追想録」編集委員会編『稲垣登』より)。1974年には勲二等瑞宝章を受章した。1975年に三井建設会長に就任したが、まもなく病を得て第一線を退いた。
- 2 名高商時代の稲垣。すでに和歌山時代から、相撲の選手として有名で、和歌山商業学校の校長は「泉下の寵愛を一身に集めたる選手」と評している。名高商には学校推薦で入学したが、和歌山商業での卒業成績は4番と学業も優秀であった。
- 3 名高商1925年卒業アルバムの相撲部のページ。写真4の横綱を締めた稲垣が写っている。
- 4 学生横綱となった稲垣に相撲司家の吉田追風から贈られた横綱（練絹手綱）。現在は、名古屋大学体育会相撲部が所蔵している。